

金城学院大学の取組が 国のモデル事業として選定 ～ 先進的キャリア教育の実践 ～

本学のキャリア教育体制が、文部科学省の「現代GP」に選定されました。「現代GP」とは何か、そして、本学のキャリア教育体制とはどういうものを詳しく紹介します。

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)とは

各大学は今、個性の明確化や教育の質の向上を旨として教育改革を進めています。それを後押ししようとするのが文部科学省の「GP」です。

GPとは「Good Practice」の略称で、もともと国際機関の報告書などで「優れた取組」という意味で幅広く使われている言葉です。文科省はこれをキーワードに、大学教育改革の支援・促進策を実施。それは、各大学が進める取組の中でも、特に優れた取組を「Good Practice」として選定し、重点的に財政支援するというインセンティブを与える一方、選

定した取組を広く社会に公開し、各大学が参考にすることによって高等教育の底上げを図ろうというものです。

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、社会的ニーズの高い取組のなかでも、特に優れた教育プロジェクト(取組)を選定するもので、「現代GP」と呼ばれています。

本学における キャリア教育の目標と特徴

「現代GP」に選ばれた本学の取組は、将来のビジョンが描けない若者の増加が指摘される今日、女子大学である本学が女性のためのキャリア開発サポートのあり方を追求したもので、「個重視・女性のためのキ

ャリア開発サポート」と名づけています。

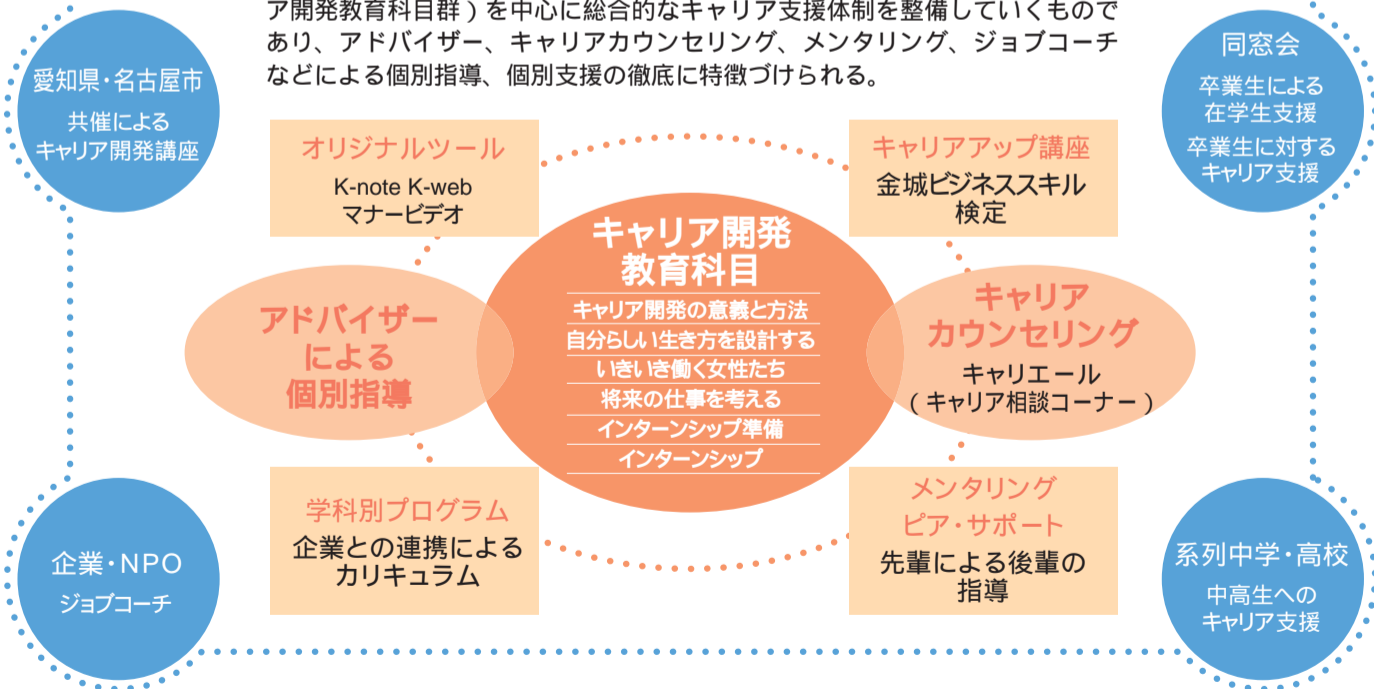
この取組の目指すところは、「キャリアデザインの形成」、「目標の明確化と能力開発」、「自律的な進路選択行動」の3つを学生に達成してもらうこと。これらは順を追って達成してもらうもので、1入学後の早い



ホテルでのインターンシップ

金城学院大学のキャリア教育体制

本学のキャリア教育体制はイメージ図に示したように、正課授業科目(キャリア開発教育科目群)を中心に総合的なキャリア支援体制を整備していくものであり、アドバイザー、キャリアカウンセリング、メンタリング、ジョブコーチなどによる個別指導、個別支援の徹底に特徴づけられる。



時期から自己分析と社会研究を行い、卒業後の人生をイメージ。自分ならではのキャリアをデザインすることができるようにする、2 自ら思い描いたキャリアに具体的な目標を設定。加えて、目標に対する課題も明らかにすることにより、必要なスキルや資格の取得に向けて行動できるようにする、3 卒業後の就職や進学を主体的に選択。それを実現させるための就職活動や進学も、自らの意志で取組めるようにする——という流れをつくっています。

本学は、この目的に沿ってキャリア教育体制を整備。その特徴は、大きく三つに分けることができます。

一つ目は、正課授業（キャリア開発教育科目）をはじめとして、女性のライフキャリアを理解するための内容を豊富に盛り込んでいること。



キャリアカウンセリング

キャリア開発教育科目の授業概要

全学必修科目

キャリア開発A

キャリア開発の意義と方法

今日の社会は人生の選択肢が広がり、自分らしい生き方の開拓すなわち自律的なキャリア開発が強く求められている。この授業では、人生設計の重要性、大学生に求められるスキル、自己分析、ドリームマップの作成、女性の生き方、大学生の就職実態、卒業後の人生デザイン、キャンパスライフのデザインなどについて、講義と体験的学習の両面からアプローチし、キャリア開発に必要な基礎知識とスキルの習得をめざす。



二つ目は、個の重視。学生一人ひとりのニーズに応えられる最も効果的な方法は個別指導であることから、学科教員がアドバイザーとして指導したり、専門家によるキャリアカウ

選択科目

キャリア開発B

自分らしい生き方を設計する

キャリア開発C

いきいき働く女性たち

キャリア開発D

将来の仕事を考える

キャリア開発E(1)

インターンシップ準備

キャリア開発E(2)

インターンシップ

ンセリングを受けられるようにしました。また、就職が内定した4年生が3年生を、あるいは卒業生が在学生をサポートする機会も設けています。

三つ目は、オリジナルツールの開発と活用。キャリア支援ツールや、ビジネススキル検定などを独自に開発し、専門性に裏付けられたキャリア教育を追求しています。

この三つのほかに、同窓会や企業、自治体との連携により、開かれたキャリア教育を実践。女性としての実り豊かな人生になるよう、様々な角度からバックアップしています。

文部科学省の「選定理由」《全文》

本取組は、中部地域の女子大学として、実学を志向し、専門的な知識を職業人としての女性の育成を目指して進められてきた大学改革の一貫の教育プログラムです。取組は、まず組織体制として、正課授業科目としてのキャリア開発教科目群（6科目）を創設して全学的、全学年なキャリア支援体制を整備するとともに、個々の学生のキャリア形成支援体制も同時に整備したことが大学という教育機関におけるキャリア教育のモデルとして大学の真摯な意欲を感じます。また、安易に既存の教材に頼るのではなく、オリジナルなツールを開発し、さらにキャリア支援関連の外部の人材や専門機関に頼ることなく、教職員が一丸となり、同窓生や地域との連携をはかる独自の取組をしており、いわゆる

顔の見える申請になっている点は高く評価します。「学生中心の教育」としてのキャリア支援体制の実現のためには教員の意識改革が不可欠ですが、そのためにFDにもかなりの時間を費やしていることは他大学への有意義なモデルとなるともいえます。

本取組には、多様な活動が盛り込まれていることから、本取組がプログラムとしての統合性を保つことができるように、今後配慮が必要です。

この取組をとおして、女子大学という大学の独自性をいかしたキャリア教育プログラムとその実施体制のあり方が開発され、女子大学のモデルとなること及び高学歴女性のキャリア形成に寄与することを期待します。